

オリーブの会通信

مجموعة الزيتون

2021年12月10日第13号 (通巻19号)
 オリーブの会
 大阪府豊能郡能勢町平通101-453
 tel/fax:072-737-9454
 mail: olivenokai_zeytun@yahoo.co.jp
 facebook:oribunokai



エルサレム作戦は、抵抗闘争の拡大を生み出している

殉教者のポスターを破る占領軍

11月21日にエルサレムで、パレスチナ人による、入植者、占領警察への攻撃が、アルアクサ周辺で行われた。日本の報道では、「乱射」とあったが、明確にエルサレム、アルアクサを蹂躞する入植者、占領警察を攻撃したものであり、バブ・アルシルシラ作戦であり、乱射ではない。

この闘争を担った殉教者シェイク・ファディ・マハムド・アブシカイダムは、エルサレムの学校の教師だった。エルサレムでの、占領当局による住民の追い出し、聖地アルアクサの入植者による蹂躞が続いた。エルサレムの剣作戦を継承し、エルサレムに対するパレスチナ人の決意をしめた。この数日前にも、パレスチナ青年殉教者オマル・アブアッサブによる刺殺攻撃があった。この闘争のあと、エルサレムでは、入植者のバスに向かって、投石や火炎瓶が投げられた。また、占領軍は、この闘争のあと、殉教者の家族を襲い、逮捕した。また、殉教者が務めていた学校にも占領軍が襲い、学生たちが抵抗した。闘争の拡大を恐れるシオニストは、徹底的弾圧を行った。シオニストは、ハマスが行った作戦としていた。

この闘争の直前の11月19日英国政府は、イスラム抵抗運動（ハマス）をテロ組織として規定した。すでに英国は、ハマスの軍事組織カセム軍団をテロリストとして規定していた。これは、もちろんイスラエル政府の要求に

こたえたものである。自ら、パレスチナ市民に行っている連日のテロ活動を隠ぺいするために、ハマスの抵抗闘争をテロと呼んでいる。占領下の人々には、占領に抵抗する権利があり、その権利の行使である抵抗闘争をテロとすることは、自らのテロ支配を正当化するものである。

また、イスラエルは、パレスチナの6市民団体をテロ組織として規定した。6団体のうちUAWC（農業労働委員会連合）は、すでにテロ組織として規定されていて、イスラエル政府は、オランダ政府に援助をしないように要求した。その時の理由はイスラエルがテロ組織として規定するパレスチナ解放人民戦線と関係があることであった。他の5団体もそうであるが海外からの支援を断ち切るために、テロ組織と規定したものであった。これらの団体は、人権団体などで、到底テロ組織ではありえないし、アメリカを含めて、この規定に対して、疑問を挟み、EUなどは、援助を続けると明言した。

イスラエル自身も、テロ組織ではないことを知っており、規定して以来、事務所の閉鎖などは、行ったが、団体のメンバーを逮捕するなどの弾圧は、行っていない。

明確なのは、国際的な支援を受けて、力をつけてきたパレスチナ人権団体の力を奪うことです。とくに、UAWCは、農業NGOとして、イスラエルに破壊されている食料

オリーブの会通信 第13号(通巻19号)

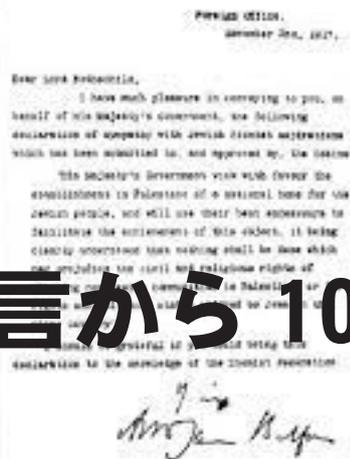
主権を復活させるために、農民の支援を行ってきた。とりわけ、エリアCでの農民の支援に力を入れてきた。こうした、市民運動の地道な努力が、シオニストのパレスチナ支配を侵食していくものになっている。

さらに、シオニストは、パレスチナを孤立させることで、支配を強めるために、アラブ反動諸国との正常化をすすめて、アラブ諸国のパレスチナの大義へ支持をさせないようにしている。イスラエルとアラブ反動国家による正常化は、国交のみならず、軍事、治安共同にまで至っている。イスラエルは、パレスチナとの交渉や二国解決方式を否定し、「和平のための和平」と称して、対イランで自国の利益を第一におく、アラブ反動諸国との国交の正常化を行い、なおかつ軍事、安全保障の共同までにすすんでいる。

また、これは同時にイラン包囲網でもある。現在のイスラエルの最大の敵は、イランであり、湾岸諸国との正

常化をすすめるだけではなく、中央アジアの隣接するアゼルバイジャンなどの軍事共同を行い、イランに対するテロ攻撃を行う基地としている。

イスラエルのやり方は、一挙的な対立になることを避けながら、徐々につぶしていくというやり方を行っており、このエルサレムでの作戦は、それに対して、対決するというメッセージを送ったものである。また、自治政府のイスラエルとの交渉を復活させようとする試みに対しても明確にノーを突きつけたものである。パレスチナに対するイスラエルによって作られた包囲を打ち破るために、パレスチナでの闘いに連帯する国際的な活動が必要である。



バルフォア宣言から104年

2021年11月2日に投稿 | 20:14 (PFLPのホームページからの転載)

1、1917年の約束と2021年のパレスチナとアラブの現実との比較

2021年11月2日、バルフォア宣言から104年が経過しました。2021年のパレスチナとアラブの状況は、発表時のアラブの状況よりもすべての政治的および社会的レベルで悪化し、低下しています。

「英国の約束」の発表は、その段階での遅れた社会的および政治的状況の特殊性のために組織化された行動または人民基盤をもたない教育を受けたリベラルなエリートの小グループの間で愛国的で一神論的なアイデアの種がまかれたことによって特徴づけられたと言っても過言ではありません。それにもかかわらず、これらのエリートは彼らのビジョンと目標において先進性を代表してい

ました。愛国心とナショナリズムは、従属、政治的衰退、帝国主義 / シオニストの条件への服従と依存、そして彼らが主要な民族統一に回帰する状態に捧げてきたという事実において、現在の段階で支配的なクラスのエリートが表すものよりも優れています。

2、バルフォア宣言の予備知識

約束の前奏曲は、実際には第一次世界大戦が終わる何年も前に始まり、トルコ・ドイツ同盟の敗北とオスマン帝国の崩壊が明らかになった後に形になりました。当時の植民地同盟国（イギリスとフランス）は、アラブ世界を分割する独自の戦略的計画を実施することを決定し、1916年にサイクス / ピコ協定の署名が発表されました。

この条約は、植民地の利益への対応として、一方で、シオニスト・プロジェクトと、植民地計画に奉仕し、植民地資本家の利益を確保し、一方ではアラブ民族の統一

を妨げ、後進性の継続その発展の押しとどめる方法でアラブの政治地理学を解体した。したがってバルフォア宣言の発表は、シオニスト運動の機能と役割に関連してそれらの利益を達成するためにパレスチナにシオニスト国家を設立するというイギリス/フランスの植民地ビジョンの集大成でした。

これがバルフォア宣言の意味と目標であり、20世紀初頭の資本家の利益の要件を反映し、歴史的根拠のない聖書の宗教的幻想をそれらの要件のサービスに利用しました。

3. バルフォア宣言は、資本家の利益の要件を反映しています。

バルフォア宣言は、20世紀初頭の資本主義的利益の要件を反映したものであり、その後、これらの要件と利益のために、歴史的根拠のない聖書の宗教的幻想を使用しました。

これらの事実を確認するには、歴史を振り返る必要があります。これは、いわゆる「約束の地」、「ユダヤ人問題」、または「シオニスト運動」が、私たちの英国植民地政権の利益を永続させるために使用された口実にすぎなかったことを確認できます。その存在が1957年まで続いた。

その年以来、アメリカ合衆国は、その西暦135年以降のパレスチナとユダヤ人のつながりの切断を確認する歴史の事実にもかかわらず、同じ聖書の口実と人種差別主義のシオニストの考えを使用することによって、グローバル化された帝国主義の形で資本主義システムをリードしていた。

つまり、いわゆる「ユダヤ人の帰国」は、聖書の帰国やシオニズムの宗教的信念ではなく、計画されたパレスチナへの「帰国」であり、西欧と米国の植民地資本主義政権が、その先駆者たちが「ユダヤ人」要因を成熟させることができたシオニスト運動への支援を通じて提供したものです。当時のパレスチナとアラブのレベルでの主体的要因の弱さと脆弱性とは対照的に、シオニスト運動は目標を達成するための動機、作業メカニズム、組織のすべての要素を持っていました。(そして今でも同じです) アラブ側は、バルフォア宣言とシオニスト運動を拒絶したが、一方ではオスマン帝国の支配下で、運動の発達がきわめて不十分だったために、自分自身を組み立てることができなかったために一般的なスローガンに限定されました。それが、シオニスト植民地プロジェクトの成功への道を開いた重要な要因であり、「聖書の帰還」の幻想はそれなしで実現は不可能でした。

4. 彼の著書「The Brief History」では、

英国の歴史家「J. H. ウェルズ」は言います。「パレスチナのヘブライ人は、混雑した道路の真ん中に留まることを主張し、バスやトラックに常に踏みにじられた男の場合のようであり、彼らの財産は最初から最後まで、その歴史は彼らの歴史よりも大きいエジプト、シリア、アッシリア、フェニキアの歴史における小さな出来事に他なりませんでした。これは、ローマ皇帝ハドリアヌスが西暦135年にパレスチナからユダヤ人を追放してから19世紀の終わり、つまり約1750年間にわたる、ユダヤ教の信者の歴史的な道筋を裏付けています。歴史は、イスラエルの国家を樹立しようとするユダヤ人の政治運動や集団の深刻な証拠や兆候を知らず、この問題は、ルネッサンスと資本主義の時代とその戦略的利益の追求の時まで登場しませんでした。そのため、ユダヤ人の「国民の故郷」と呼ばれるものの政治的アイデアを組み立てたり、策定したりする必要がありました。

この点に関して、故ジャマル・ハムダン博士は彼の著書「ユダヤ人人類学」の中で、「イスラエルは、海外からパレスチナへの人口移動に基づく人口統計学的植民地主義である」と述べています。彼らにとって：ユダヤ人のパレスチナへの帰還は、聖書的、タルムード的、または宗教的な帰還ではなく、レイプによるパレスチナへの「帰還」であり、古代の息子の帰還ではなく、見知らぬ人による侵略と攻撃です。それはあらゆる意味でレイプですが、世界中の人種のすべての混合物のための生きた博物館です。

したがって、「バルフォア宣言」とその前提を、資本主義植民地の利益と要件に関連して分析する必要があります。この事実は、主に「イスラエル国」設立の主要要因を研究するときに戻らなければならない客観的かつ歴史的な真実を構成します。特にサイクス・ピコ、次にバルフォア宣言、そしてパレスチナに関する英国委任統治がなければ、「イスラエル国」が世界地図に現れなかったと言わなければなりません。

5. バルフォア宣言の紹介と結果…

ヨーロッパが2つの奴隷制度(西暦4世紀まで)と18世紀まで続いた封建制度の下で生活していた期間中のユダヤ人の問題の歴史については誰も言及しませんでした。

ルネッサンスの始まりとヨーロッパでの資本主義システムの出現により、資本運動の蓄積、発展、拡大に基づいて、アラブ・マシュレック(アラブ東部)におけるその戦略的利益を保護する方法を考え、探求し始めました。

資本主義システムの戦略的ビジョンは、ルネッサンス以前のヨーロッパの政治精神にはなかったユダヤ人の歴史を、約17世紀後のユダヤ人の問題の復活させ東方問題と交差させたのでした。したがって、新しい資本主義システムは、ユダヤ人の問題の宗教的性格を復活させ、シオニストを奨励することに熱心でした。ルネッサンスの合理性と、民主主義と市民権に基づくその啓蒙とヒューマニスト哲学とは対照的に、思想とその先駆者、資本主義の利益の力は、すべてのスローガンと基盤を覆い隠しました。ルネッサンスを構成した知識人、宗教的、聖書の形而上学的次元を、これらの資本家が自らの口実としてのヨーロッパと古代世界を結ぶ陸橋(パレスチナ)に強力で奇妙な人間の障壁を確立するという戦略的目標を達成するために、利用しました。

その後、1897年に最初のシオニスト会議を開催し、その後1907年、「キャンベル-パナーマン会議」として知られているロンドン会議を開催することを奨励しました。その後、サイクス-ピコ協定、次にバルフォア宣言、1922年の委任文書、1948年までのパレスチナにおけるユダヤ機関とその役割の公式承認。そして労働者、農民、貧しい人々の息子からの何千人もの殉教者を通じた敵シオニストとの闘いの継続は、その歴史的段階のすべてにおいて、闘争と革命の燃料でした。私たちが今日住んでいる政治的および社会的退廃は、すべてのアラブ諸国と同様にパレスチナでの支配者と影響力のある階級層が、従属的および後進的体制の下にある状況に照らして、アメリカ帝国主義とそのシオニストパートナーへの服従と依存を通じて彼らの利益を維持するために、民族全体と民族闘争運動を苦しめた。その結果、現在の状況または主体的要因、公式パレスチナとアラブは、ボロボロのブルジョア指導者であるが、この段階で譲歩を行ったため、バルフォア宣言が発行されたときの主体的要因より歪んだイメージになりました。

封建的指導部は、その怠惰にもかかわらず、イスラエルの分割決議または承認を拒否したのと同じように、バルフォア宣言を拒否しました。一方、PLO指導部は、パレスチナを解放するための武力闘争のスローガンから180度後退し、何の見返りもなく敵の国家を承認した。

6、ヘルツルとバルフォアとシオニスト実体の機能的役割についての話...

シオニスト運動の創設者テオドール・ヘルツルは、一方ではシオニスト運動と、他方では資本主義植民地制度の利益との間の有機的な関係の性質を強く認識しており、それは「イスラエル」が役割と機能は、資本主義

大の要件を満たすためにのみ確立され、バルフォア宣言は、イギリスの植民地の利益に奉仕するためのそれらの要件の最も重要な成果の1つであり、1957年以来、植民地支配の終焉とアメリカの支配の原因となるイギリスの役割の後に「イスラエル」はアメリカ帝国主義に対処するために動き、その計画を実行し、アラブ世界での利益を保護するための順応性のある道具になりました。

1967年6月の敗北により、敵イスラエルは、特に現在のグローバル化の状況とほとんどの支配層の従属において、徐々にアメリカ帝国主義の真のパートナーになりました。キャンプデービッド協定とオスロ、ワディ・アラバ、そしてイスラエルとの正常化プロセスの開始を通じて、帝国主義シオニスト同盟の要件と条件に対する公式のアラブシステムの従属となりました。

現在の帝国主義は、グローバリゼーションを進める中で、すべてのアラブ諸国における人種差別的な宗教的傾向、宗派主義に火をつけることを目的とし、おそらく「イスラエル」における人種差別的な宗教的現象の広がり、これを促進する役割を果たしている現象であると言っても過言ではありません。前例のない服従、依存、後進の状態になっています。イラク、スーダン、イエメン、エジプトの場合のように、その断片化と解体を永続させるために、より多くの人種差別的、教義的、民族的傾向をかき立てることは、このアラブの弱点が拡大された最も重要な理由の1つであり続けます。アラブの弱点が、敵シオニストの力、その傲慢さ、攻撃性、そして「ユダヤ人国家」というスローガンを条件として掲げることによって表されるその醜い人種差別を強めています。それは、PLO指導部とのいわゆる進行中の交渉プロセスであり、いわゆる平和の名前のもとでの降伏へのさらなるステップです。

7、今日の現在の段階のタイトルは、和解からパレスチナの大義の清算への移行？

(すべての色とスペクトルの)パレスチナとアラブの民族主義勢力の継続的な衰退に照らして、そして国際的、アラブ的、そして地域的状況におけるファタハとハマスとの間の党派的利益をめぐる継続的な分裂と対立に照らして、パレスチナ人はこれからの進路を失い、自由、独立、帰還のためのビジョンと国家決定を課す能力を失い、そして外部支配が固められた。パレスチナの大義の現在の問題では、その内容と解放闘争の目標を無に帰している事です。そして、覇権は今日アメリカとシオニストの同盟によって導かれています。そして、地域大国、特にトルコ、そして公式のアラブ政権のほとんどの国々は、敵

シオニストの承認と正常化を明確に求めている。

そのような退廃の状態と帝国主義シオニスト計画への公式のアラブの服従において、現在の段階は次のように思われます：いわゆる和解またはいわゆる和平プロセス、穏健化の口実の下での民族的認識失い、日和見的利益を持つパレスチナ人の協力の下パレスチナの大義の清算に移行しました。これらはすべて表に出てこない口実であり、アメリカ、敵シオニスト、トルコ、サウジアラビアと湾岸諸国の条件と矛盾しない疑わしい役割が彼らの間で共有されています。

私たちの民族の大義と何十万人もの人々が犠牲にしたこの壊滅的な状況では、日和見主義的パレスチナ人の絶望と彼ら自身の利益は彼らを駆り立てるものであり、民族的な目的ではありません。日和見主義者の手による一連の譲歩の悪意のあるエピソードとパレスチナ人の権利の放棄（すべての色、名前、個人、グループ）は底なしであり、私たちの民族の大義の結果が示していることを確認するものです。シオニスト国家が現在のパレスチナの行き詰まりに照らしてその条件を課すために時間を盗んでいる間、西岸とガザ地区で国家を獲得するという幻想... 話をキャンセルしたり違反したり、設立の計画を立てたりすることなくガザ地区の破損した小国をつくることに。

したがって、原則と民族目標への深いコミットメントに基づいて私たちの多元的な民族統一を回復し、解放と民主的闘争を継続するために、壊滅的な分裂を終わらせ、克服するために立ち向かう必要があります。自由、独立、そして帰還のためのあらゆる形態の闘いの必要。分裂と現在の行き詰まりを終わらせて克服するのか、私たちがそれと私たち自身と私たちの大義を失った後、私たち全員を私たちの国で屈辱的な奴隷に変えるのか？

そして私たちは現在、分裂が続く限り、そしてアメリカと敵イスラエルが私たちの人々の能力を支配し続ける限り、そしてパレスチナの政治ファイルが制限なしにイスラエルのファイルのままである限り、現在は失われ、未来への扉は閉ざされ、私たちはマフムード・ダルウィッシュにこう言う権利があります。[^ あー未来よ、あなたが誰か私に聞かないで。私からあなたは何が欲しいのですか？それも私たちはわからない。]

8、バルフォア宣言の104年の機会に、故郷のパレスチナにおける私たちの人々の歴史的権利に関する明白な革命的立場...

この明確な立場は、シオニスト国家を終わらせることによってパレスチナが回復することを前提としている、

パレスチナにおける私たちの人々の歴史的権利に由来しています。これは、その巨大さにもかかわらず、またはそれを取り巻く懐疑論にもかかわらず、現在の勢力均衡がそれを達成するのに役立たないため、本質的な問題です。パレスチナとアラブの革命勢力として、それを可能にするために勢力均衡の調整に取り組まなければならないのは私たちです。そして、勢力均衡は完全に国際情勢に基づいているのではなく、左翼アラブ解放運動のビジョンと民族のおよび革命的な国家プログラム、そして買弁を打倒し、民族民主主義の目標を達成するための闘争に基づいています。人々とアラブの大衆の力の願望と利益を具体化する社会主義の地平とそれが課す革命的な解放と民主的な変革を伴う革命に基づいています。

帝国主義とシオニズムがこの地域全体と私たちの民族の大義のために取り決めたものは、衰退の現在の段階における敵シオニスト / 帝国主義の質的で大きな成功と成果を考慮しても、避けられない運命ではありません。この現実は無遠く最終的なものではありません。アラブの人々と民族の権利と利益に対する敵意とその根本的な矛盾は、その進歩的な民族の力を通じて、より成熟し、より敏感な進歩の新しい段階の基礎を築く方法で行動し、民族的に現実の客観的かつ主観的な動きに立ち向かうことができます。

この段階では、すべての人の心と腕、そして闘争を継続し、歴史的な民族的プロジェクトを具体的な物質的実現のレベルに移行するために努力し続ける意志と決意が必要です。

これは私たちが進めなければならない点であり、紛争がシオニスト国家を含む、帝国主義の支配に反対するアラブ世界で人民階級は、帝国主義の独占企業の利益のためのツールと闘わなければならない点です。

※バルフォア宣言（バルフォアせんげん、英語：Balfour Declaration、）とは、第一次世界大戦中の1917年11月2日に、イギリスの外務大臣アーサー・バルフォアが、イギリスのユダヤ系貴族院議員であるロスチャイルド卿ウォルター・ロスチャイルドに対して送った書簡で表明された、イギリス政府のシオニズム支持表明。この宣言をシオニスト連盟に伝えるようロスチャイルド卿に依頼した。



2021年11月2日に投稿 | 20:13 (PFLP ホームページからの「転載」)

フリーダムトンネルの英雄たちの脱出と彼らの再逮捕は、捕虜運動の隊伍を固め、彼らがイスラエルの刑務所当局の苦しめた出来事の表面に浮かび上がらせ、そしてパレスチナとイスラエルのメディアにすべての公の場でそれを流させることに成功した。

偉大さは、フリーダムトンネル作戦での英雄の脱出の経験の教訓にあります。それが、イスラエルでの、諜報システムの壊滅的な失敗、入植者の政府を苦しめた危機的な状況、またはパレスチナ人の正当性の根拠と意志の優位性のレベルに、そして捜査官と司法制度、そして司法制度への挑戦に現れた。

起こったのは、美しいシナリオや断片化された出来事だけではありませんでした。この出来事は、獄中者の生命への厳しさと危険性の観点から、前例のないシオニストの懲罰的措置を受けていた、そして捕虜運動のファイルを高めたからです。

繰り返しになりますが、ミレニアムの後、イスラエルは、人道法、聖約、法律を遵守する方法を知らず、むしろすべての人間の価値を踏みにじる国であることを証明しました。イスラム聖戦の獄中者に対して、そして虐待、孤立、混乱および集団的処罰の政策を続けた。ちなみに、イスラエルは毎日大規模なキャンペーンを開始し、数十人の被拘禁者に影響を与え、神聖さ、土地、人々、権利を侵害する占領政策に勇敢に立ち向かう人民運動を葬り去ろうとしています。

捕虜運動に対するこの占領権力に直面して、私たちは、大衆運動を主導し、占領者の政策に立ち向かうという歴史的役割を取り戻さなければなりません。捕虜運動の歴史は、監獄の鼻っ柱を折ること



2021年11月2日に投稿 | 20:14 (PFLP ホームページからの転載)

ルネッサンス、文化、文明、諸概念は人間社会の進歩と発展の程度を測定するための指標として使用される。ルネッサンスの概念は、中世からヨーロッパの近世への移行を目撃した段階に関連していた。彼がその段階をルネッサンスと呼んだところ、それらの使用の文脈は主に文化的小および知的であり、それらは特に芸術に焦点を合わせてきた。

私たちのアラブ世界では、ルネッサンスの先駆者は19

世紀の後半に出現しました。その指導者たちは、2つの主要な任務を引き受けました。一つ目はアラビア語の復活、伝統の復活と世界的な人間の思考への開放性、そして二つ目はオスマン帝国の専制政治と闘い、それからの独立を達成するために努力することです。

ルネッサンスは文化と出会うものであり、どちらも特別な環境に由来し、特定の時期における民族のアイデンティティと結びついています。文化は、習慣、伝統、そして人々の創造性のさまざまな要素の産物です。文化の

法則は、蓄積、相互作用、そして変容です。それは、古いものと新しいもの、伝統と民間伝承の相互作用であり、最終的には新しいものが普及します。

それは安定性と人間の社会化を知っていたので、文明は人間に付随してきました。ルネサンスと文明の概念は重なっていますが、ルネサンスは行動のプロジェクトであり、文明危機の前兆であると言えます。

3つの概念（ルネサンス、文明、文化？）を構成する要素を詳しく見ると、それらのいずれも固定されておらず、すべて変化可能であることがわかります。それは古代、変容、そして昨日は信頼できる文化や文明であったものが今ではそうではないかもしれません。たとえば、農業は文明の主要なテーマでした。なぜなら、それは人間の安定と都市の創設を確立した要因の1つだったからです。

しかし、原始的な農業から現代の農業へとそのパフォーマンスを発展させようと努力しない純粋な農業社会の存在は、これらの社会を後進として分類する理由になっています。文明化された政策は、その前身とは異なり、科学、集中的な生産、そして最高の品質と量の基礎を築く必要があります。

経済、その資源、そしてその原動力の世界では、物事は大きく変化しているので、私たちが天然資源や原材料を工業製品に変えずに所有していることへの尊重は、非難の要素になっています。文明に取り残されています。急速な変化とともに根本的に変化した芸術の生き方もそうです。

そして、それは文明の残りの要素にも当てはまります。芸術と創造物は、古いものが新しいものに続き、安定していない場合です。社会的発展とともに、知的および道徳的遺産に起源を見いだす新しい概念と道徳的システムが出現しますが、それらはそこで止まりません。質問は同じままではなく、質問が増えるほど、一貫した回答を提供する必要があります。

文化と文明の間のアプローチでは、前者は他の文化を利用して相互作用しているとしても、特別な地域のアイデンティティを持っていると言います。科学の大きな発展と新技術の発見は、人間の文化間の相互作用を加速させましたが、人間の文化の特異性を廃止することはでき

ませんでした。

文明に関しては、その性格は人道的で歓迎されるべきものであり、その機能は空間的ではありません。現在、単一の文明特性を持つ世界的な運動があり、経済競争は現在、単一のパターンの文脈で行われています。そして、私たちがアラブ文明プロジェクトについて言うとき、それは私たちが住んでいる宇宙時代に追いつくことを意味します。

生産的な社会への移行の条件を提供することを除いて、現在のアラブの危機から抜け出す方法はありません。これに関連して、野心的な産業開発計画を策定し、このセクターを前進させるための投資機会を強化することが急務です。これは、製造プロセスを成功させるための適切な条件を提供することによってのみ実現可能です。これらの最初のもは、教化の文化を分析文化に変え、真の科学と真の思考を奨励することによって、そして依存と躊躇の文化からイニシアチブと創造性の文化に移行することによって、文化と教育の結果を変えることです。

ルネサンスプロジェクトを再考し、アラブの経済統合を達成することは避けられません。それだけで、アラブ人は大規模なブロックと大規模な産業の世界の適切な場所に置かれ、これは全体の進歩のための入り口です。

おそらく、この命題はルネサンスと文化の機能と文明の機能との相関関係にあります。3つの概念間の関係についての議論は続いています。ルネサンスは、強力な文化的構造に基づいて将来のプログラムを策定するために思考の機関車を前進させ、文明は進歩のための新しい環境を作り出すので、建設と仕事は戦略的ヴィジョンの中で科学、知識、芸術のさまざまな分野の進歩と相関しています。包括的なアラブ、より良い未来を創造するために現在のトンネルから抜け出し、アラブ諸国が目撃している大規模な崩壊の状態から私たちを動かすことを目指さなければならない。

パレスチナ日誌

10月1日

- ・大統領は、イスラエルの二人の閣僚をラマラに招いた。
- ・ガザのコロナ、5人塩部、1065人の新たな感染者
- ・占領当局は、負傷した獄中者モハマッド・ザレイニのブルキンの家の解体通知をだした。
- ・ベイタとベイト・ダジャンで占領軍の発砲で90人が負傷した。
- ・占領軍は、ベイト・ウマルの入り口で、釈放された獄中者を逮捕した。
- ・占領当局は、エルサレムで、無許可で入国したという口実で、数百人が逮捕された。
- ・プリンケン、ジェイクジャラ、ガザ、捕虜となっている兵士についてのアメリカの立場を発表した。
- ・占領軍は、国境を越えたレバノンの羊飼いを逮捕した。
- ・カフル・カッドムで、占領軍によって子供が銃撃され負傷し、他の人々は窒息した。
- ・9月に、エルサレムで、5人の殉教者、154人の逮捕、4件の家の解体
- ・パレスチナのコロナ22人の死亡、1340人が新たな感染者
- ・カバティヤで占領軍は、殉教者、イスラ・クザイマの夫と兄弟を召喚した。
- ・イスラム協力機構がエルサレムで占領軍の暴力のエスカレートに警告した。
- ・イラクの知識人は、イスラエルとの正常化に反対する恒常的な会議を準備している。

10月2日

- ・パレスチナのコロナ、12人の死亡と679の新たな感染者
- ・ガザのコロナ、6人死亡、552の新たな感染者
- ・占領軍は、ガザから侵入したパレスチナ人々を逮捕した。
- ・入植者がツバスの東のビヤマト・サウード地域を急襲した。
- ・パレスチナは、入植地と民族浄化を止めるための強固な国際的な立場を呼びかけた。
- ・48年領内のパレスチナ人が、エルサレムとアルアクサの贈り物を記念した。
- ・占領軍は、ジェニンの西、ヤバドの子供を逮捕

10月3日

- ・イスラエルの将校は、ガザでの最近の衝突で、ハマスのトンネルを破壊する計画は失敗したと認めた。
- ・占領軍は、ナブルスの4人の青年を逮捕した。
- ・占領軍は、西岸で12人のパレスチナ人を逮捕した。
- ・パレスチナのコロナ、12人死亡、872人の新たな感染者
- ・占領自治体の決定によって、アルーラジビー家は、自分の家を手で解体した。
- ・入植者が攻撃した後占領軍は、ヤッタの東の二人の兄弟を逮捕した。
- ・パレスチナのコロナ、12人が死亡872人が新たな感染者。
- ・入植者たちは、サルフィットの西の自分たちの土地に農民が入ることを阻止した。
- ・農民は、占領当局がトマトのグリーンカバーなしで、販売することに農民は抗議行動を行った。
- ・9月に、23回以上のアルアクサに対する冒とくが行われ、アルーイブラヒミで80回のあアザンの禁止を行った。
- ・ガザのコロナ、6人が死亡、511人の新たな感染者
- ・攻撃と逮捕—自然当局の職員がシリワンのワディ・アルーラババの土地を急襲した。
- ・大統領は、イスラエルの保健相、地域協力相とラマラで会談した。
- ・人民戦線の代表団がシリアの外相と会談。
- ・イスラエルは、イランのアゼルバイジャンとの国境での演習で3人のイラン兵が死亡したとイランは否定。

10月4日

- ・パレスチナのコロナ、12人死亡、1559人の新たな感染者
- ・占領当局は、サルフィットの西のダール・アルーダラブの考古学発掘現場の仕事を停止すると通知した。
- ・占領軍は、西岸で、6人の市民を逮捕した。
- ・イサウイヤの町で逮捕キャンペーンが行われた。
- ・ハーンユニス東への占領軍の機甲化部隊の限定的な侵襲
- ・ガザのコロナ、10人死亡、1220人が新たに感染。
- ・ヘブロンで、ハンストに連帯する座り込みが行われた。
- ・世界ハビタットデーの記念日、占領当局は、172900のパレスチナ人家を解体した。
- ・48時間に3回入植者が、プリンの土地に放火
- ・ベネット・モサドは、イスラエルのパイロットロン・アラドを探している。
- ・48年領内のパレスチナ人たちは、シンベトと軍の彼らのことに介入するのを拒否した。

10月5日

- ・アッバース大統領は、米国特使と会談。
- ・占領当局は、ヤッタの東の二つの家の建設をとめるように通知した。
- ・シェクジャラの人々は、彼らの権利に影響を与える占領当局とのどのような和解も拒否した。
- ・ガザのコロナ、8人死亡、1018人の新たな感染者
- ・イスラエルは、武器を見つけるために、シンベトをアラブコミュニティに導入。
- ・占領軍は、サルフィットの西で、市民を建設をやめるように強制した。
- ・アメリカのイスラエルへのメッセージ：イランとの話し合いが失敗したら、我々は他の方法をとる。
- ・ラファの東にイスラエル10台の車両が侵襲した。
- ・西岸で、市民が逮捕された。
- ・ベン・ギヴィルの挑発的な訪問に対して、市民と過激派が衝突
- ・ガザで、UNRWAの前で、大規模なデモ
- ・入植者たちの祝賀の安全のため、シェイク・ジャラ近隣の封鎖と警官の展開

10月6日

- ・UAEとイスラエルの内相が治安共同を強化することについて協議
- ・駐ロシアイスラエル大使カラバフでのイスラエル兵の存在についてコメントした。
- ・エルサレムで、占領軍と入植者たちの攻撃
- ・占領軍は、ヤッタの東のキャラバンを没収した。
- ・占領軍は、ヘブロンで4人の市民を逮捕した。
- ・占領自治体は、シリワンの一軒の家を解体した。
- ・占領自治体は、シリワンの地で、解体命令を配布した。
- ・ガザのコロナ、10人死亡、870人の阿多な感染者
- ・西岸とエルサレムでの逮捕
- ・イサウイヤ、三日目の逮捕と捜索が行われた。
- ・占領自治体は、エルサレム近くに、10000戸の入植地住宅の建設を支持した。
- ・フェイスブックの創設者と夫人は、130万ドルをユダヤ人組織に寄付した。
- ・エラド入植地が、シリワンの財産を管理
- ・記録的な数字—約6000人の右う蝕者たちが一か月で、アルアクサを急襲した。
- ・パレスチナのコロナ、18人死亡、1091人の新たな感染者
- ・ヨルダンは、イスラエル裁判所の過激派に、アルアクサの敷地内で祈る権利を止めたことを非難した。
- ・米国政府は、ベネットに入植をやめるように呼びかけた。
- ・入植者たちは、古代の「殴打の家」を急襲した。

10月7日

- ・アラブ連盟は、アルアクサのユダヤ人の祈りを許可する決定を非難した
- ・獄中者ミクダッド：決定の延期、前進でも遅延でもない私は、ハンストを続けている。

- ・イスラエルは世界中の大使館にイラン攻撃について警告
- ・民主戦線は、アルアクサでユダヤ人礼拝認める決定は、民族的地位はく奪に導く。
- ・イスラエル外相オマンが次の正常化の国である。
- ・ガザのコロナ、7人死亡、728人の新たな感染者
- ・ナブルスの南で、入植者たちが農民を農民の土地から追い出した。
- ・プリンでオリーブ摘みを入植者たちが攻撃
- ・パレスチナでのコロナ、9人死亡、946人の新たな感染者
- ・イスラエル労働党：二国家解決方式が、地域の紛争を終わらせる道の道である。
- ・占領軍は、 Beit・ウマルの市民を逮捕した。

10月8日

- ・レバノン軍は、イスラエルのレバノン主権への攻撃を非難した。
- ・入植者たちのバスが、エルサレムで投石された。
- ・イスラエルは、占領下ゴランでの新たな入植地建設を計画している。
- ・占領当局の決定を拒否して立ち止まっていた5人の少年を逮捕
- ・ガザのコロナ、12人の死亡、685人の新たな感染者
- ・裁判所の決定から一日後、「テンプル組織」が、アルアクサで祈りを行うための毎日のプログラムを設定した。
- ・エルサレムの知事：我々は、アルアクサマスクのことに占領当局の介入を拒否する。
- ・占領裁判所は、アルアクサの「沈黙の礼拝」をキャンセルした。
- ・カフル・カッダムの行進の弾圧で、イスラエル軍の銃弾で3人が負傷した。

10月9日

- ・報道：スーダンの治安と軍事代表団が秘密裏にイスラエルを訪問した。
- ・パレスチナのコロナ、11人死亡、467人の新たな感染
- ・ガザのコロナ、4人死亡、364人新たな感染
- ・入植者たちは、Beit・イクサで車を破壊した。
- ・イスラエルは、パレスチナ人に対する戦争犯罪とナクバに関連したドキュメントの出版を阻止した。
- ・マイクロソフトは、イスラエルで、他の研究開発センターをつくることを意図している。
- ・占領軍は、バブ・アルアムドの近くだ、若いエルサレム人を攻撃し、殴打した。
- ・シリワンで、占領軍との衝突

10月10日

- ・エルサレムで衝突が再開し、6人が逮捕された。
- ・メルケルがイスラエルに到着
- ・ガザのコロナ5人死亡、327人の新たな感染者
- ・カンチャンネル：占領軍の兵士たちが、西岸でのブドウの窃盗に参加している。
- ・ハアレーツ紙：米国とエジプトは、ファタハとハマスに統一政府をつくるように圧力をかけている。
- ・入植者たちは、ナブルスで数百のオリーブの木を盗んだ。
- ・ベネット：パレスチナ国家の創設は、私の家から7分の所に「テロリスト国家」がもたらされるということを意味する
- ・5か月で初めて、数百人の市民がジャバル・サビに到着した。
- ・メルケル：ドイツは、イスラエルの安全にコミットし続ける。
- ・パレスチナのコロナ、9人死亡、550人の新たな感染者
- ・イスラエルは今年の初めから20360人の新たな移民を、今年の初めから受け入れている。
- ・エルサレム知事：ユスフィヤ墓地で起こったことは、凶悪な戦争犯罪である。

10月11日

- ・占領軍は、ガザで軍事演習を行う
- ・ナイキは、イスラエルで自社の商品を販売することを停止した。
- ・ベイタで占領軍は、4人の若者を逮捕した。
- ・ガザのコロナ、11人死亡、756人の新たな感染者

- ・占領軍は、ハーンユニスの農民を標的にした。
- ・サルフィットで、農民を支援するイベントの弾圧で、負傷者と逮捕者
- ・ロネン・バルがシンベトの長官に
- ・エルサレム人たちは、占領軍によって墓を一掃されたあと、死者の遺体を埋めなおした。
- ・ヘブロンでハンストへの連帯行動

10月12日

- ・サルフィットで建設をとめ。コンクリートミキサーとポンプを没収した。
- ・イスラミック・ジハードの獄中者は、ハンストを継続することを決定した。
- ・ガザのコロナ、8人死亡、649人の新たな感染者
- ・西岸で、占領軍は10人の市民を逮捕した。
- ・コーヘン：秘密作戦は、イランの核兵器の所持を妨げることができる。
- ・400人のアマゾンとグーグルの被雇用者は、会社がイスラエルボイコットすることを呼びかけた。
- ・入植者たちは、アルーツワナの村で70本のオリーブの木を伐採した。

10月13日

- ・殴打、攻撃、逮捕—バブ・アルアムドの継続的なエルサレム人に対するその存在を阻止するための弾圧が続いている。
- ・占領軍は、3人の子供と青年をエルサレムで逮捕した。
- ・ラピド：イスラエルとアメリカは、イランとの核交渉に変わるものを探している。
- ・イスラエルの閣僚：我々は、エルサレムの米領領次回の再開に反対する。
- ・ガザのコロナ、8人死亡、579人の新たな感染者
- ・ウマルの家を急襲したとき、窒息をだし、釈放された獄中者を逮捕した。
- ・西岸で二人の負傷者を含む、9人の市民を逮捕した。
- ・サルフィットの北で入植者たちがタイヤを破壊し、スローガンを書いた
- ・シンベトの新長官、我々は、アラブ社会での暴力に直面している問題に、傍観をしない。
- ・イスラエルは、エルサレムとベツレヘムの地理的な結びつきを切断する土地の没収を承認した。
- ・イスラエル当局は、カランスワの家を解体した。
- ・パレスチナのコロナ、15人死亡、756人が新たに感染
- ・ナブルスの諸勢力は、オリーブシーズンの間農民を防衛するプログラムを準備している。
- ・エルサレム知事：ギヴァト・ハマトス入植地のための土地の没収は、侵略であり、犯罪である。

- ・米国特使、我々はイスラエルに合意していない、ワシントン、イランがテーブルに戻らなければ、すべての選択しを準備している。
- ・サルフィットのヤスフの数トナムを没収する通知。
- ・プリンケン：アメリカは、パレスチナ人たちと交渉する単にエルサレムに領事館を再開するために前進

10月14日

- ・占領軍は、バブ・アルアムドでエルサレム人に対する攻撃を再開
- ・バルミラの南の敵対的標的とシリアの防空隊は、対峙。
- ・占領当局は、カランディア検問所近くの商業施設の解体を始めた。
- ・カランディア検問所で占領軍は市民を銃撃
- ・ラマラの北で。入植者たちがオリーブの木を伐採した。
- ・ガザのコロナ、6人死亡、578人の新たな感染者
- ・ヘブロン北、アルアロウブキャンプで、占領軍は8人の市民を逮捕
- ・西岸での逮捕捜索のキャンペーン
- ・エルサレム：軽量鉄道の警備員が学生を攻撃
- ・パレスチナのコロナ、9人死亡、738人の新たな感染者
- ・ベイルートで暴力的衝突、6人死亡、60人が負傷。
- ・アウン：我々は、イスラエルとの海洋国境の交渉の再開をもとめちえる。
- ・占領軍は、カバティアとミトルンの二人の若者を逮捕した。

10月15日

- ・ガザのコロナ、7人死亡と407人の新たな感染者
- ・米国は、人権評議会のイスラエルへの不適切な焦点に反対する
- ・占領軍は、ヤバトとケフィルトで演習を行った。

オリーブの会通信 第13号(通巻19号)

- ・ベツレヘムの西で、占領軍の銃弾によって、一人の市民が殺され、他が負傷した。
- ・カフル・カッダムで、占領軍の銃弾で、二人が死亡
- ・連続して3日目、イスラム聖戦の獄中者たちがストライキを続けている。
- ・サルフィットの東で、入植者たちが農民を攻撃し、負傷させ財産を奪った。
- ・ガザのコロナ、7人の死亡と407人の新たな感染者
- ・アルーハデールの町で、占領軍との衝突
- ・フェイスブックの管理者は、パレスチナの内容の削除についての調査をする委員会を指名した。
- ・イスラエルで7か国が参加する空軍の演習が行われた。

10月16日

- ・ペイト・ウマールの獄中者アナギム・アワドが釈放された
- ・ガザのコロナ、6人死亡、198人の新たな感染者
- ・ヤッタの東、アルータワナの村の市民を占領軍が逮捕
- ・占領軍が、市民を攻撃し、二人の若者を逮捕した。
- ・イスラエル軍は、ガザとの国境で、二人のパレスチナ人を逮捕した。
- ・パレスチナのコロナ、9人死亡、270人の新たな感染者
- ・ベツレヘムの南東で、占領軍は、建設中の3つの家の解体を通知した。
- ・獄中者カワスマへの連帯のため、48年領内のカプラン病院前でデモが行われた。
- ・イスラエルは、釈放された獄中者メドハット・あるーサレハをゴランで暗殺した。
- ・イスラエル占領軍へのベドウィンの徴兵率が低下
- ・占領軍で働いたイスラエル人学生を国際的な大学に入学するのを阻止するための圧力キャンペーン
- ・入植者たちが、プリンの市民の家々を攻撃
- ・占領軍は、バブ・アルーアムド近くで、青年を負傷させ、他の二人を逮捕した。
- ・48年領内で暴力と殺人に反対するデイル・ハンナで抗議のデモがあった。

10月17日

- ・シリアは、占領下ゴランで、元議員をイスラエルが暗殺したことを非難した。
- ・平和活動家を攻撃したあと、IDFの司令官は昇進を拒否された。
- ・イスラエルは、アラブ人の医者への割合を下すために、3000人のユダヤ人医者を導入する。
- ・パレスチナのコロナ、9人死亡、440人の新たな感染者
- ・ガザのコロナ、4人死亡、259人の新たな感染者
- ・イスラエルは、C地域でパレスチナ人の建設をモニターするために予算を配分した。
- ・ベネットとラピドの間でのエルサレムの米国領事館について、不一致
- ・ベツレヘムの東から入植者たちを立ち退かせる決定
- ・イランは世界の列強と核について交渉を再開すると発表した。

10月18日

- ・エルサレムの3人の少年が逮捕された。
- ・シャケド：アヴィタール前哨基地は、合意に基づいて創設される。
- ・ガザのコロナ、2人死亡、521人の新たな感染者
- ・シンベトは、入植者のアルアクサでの礼拝は、情勢を燃え上がらせることに導く
- ・9月に14件の漁民への侵害が行われた。
- ・ヘブロン南西のサカ村で建設中の家を解体した。
- ・レバノンでの緊張の後占領当局は北部国境の分離壁の建設を加速させた。
- ・西岸で、7人の市民を逮捕した。
- ・占領軍は、突然海軍演習を開始を発表した。
- ・彼女が逮捕されて後、6年後、アブカミ一家は、ガザの境界を超えることを待っている。
- ・「我々は国を離れることを拒否する」占領当局は、編集者サラハ・ハモウリの身分をはく奪した。
- ・バブーアモウド地区で、占領軍は、攻撃し、殴打し、二人のジャーナリストと若い女性を逮捕した。

- ・パレスチナのコロナ、5人死亡、709人の新たな感染者
- ・ベツレヘムで、ハンストを支持するスタンディングが行われた。
- ・ガザ市の東への占領軍の機甲化部隊の限定的な侵攻
- ・エルサレムの北西で、パレスチナ人の女性が、ナイフを所持していた口実で逮捕された。

10月19日

- ・ガザからのミサイルがガザ内に着弾
- ・ガザのコロナ、3人死亡、519人の新たな感染者
- ・占領当局は、釈放された獄中者、ナサレーン・アブカミルがガザに入ることを許可した。
- ・イスラエルは、自治政府に、約4000人の登記と住所の変更を承認したことを通知した。
- ・イスラエルは、占領下ご覧に7000戸の入植地住宅を建設することを決定した。
- ・イスラム聖戦の獄中者のハンストは、7日目に入った。エスカレーションのステップの中で
- ・ナブルスの西で、数百のオリーブの木を入植者が根こそぎにした。
- ・バブ・アルーアモウドで、占領軍は、エルサレム人を弾圧
- ・占領当局は、元獄中者アブカミルがガザにもどることへ条件をつけた

10月20日

- ・占領軍は、ガザに近隣する入植地の道路を閉鎖した。
- ・抑圧の継続、エルサレムでの逮捕、負傷
- ・エルサレム、バブ・アルーアムドでの逮捕と負傷者
- ・ガザのコロナ、2人死亡、181人の新たな感染者
- ・3日間の禁止の後、釈放された獄中者、ナスリーン・アブカミルは、ガザに到着した。
- ・ナブルスの南で、オリーブを盗んだ入植者が逮捕された
- ・西岸での逮捕、基金の没収のキャンペーン
- ・パレスチナのコロナ、5人死亡、275人の新たな感染者

10月21日

- ・ウムーアルファハムは、殺人のエスカレートに抗議して明日、全面ストをすることを発表した。
- ・米国とイスラエルは、エルサレムのアメリカ領事館をめぐる問題で、解決するためのチームを作るだろう。
- ・エルサレムで、占領軍は、市民を逮捕し、他を負傷させた。
- ・米国の安全保障チームが、エルサレムの領事館の開設の準備をしている。
- ・西岸での逮捕
- ・入植者が、ナブルスの南で、ごみ収集車を没収した
- ・イスラエル当局は、ラハトの家を解体した。
- ・20年初めて、ヘブロン中心で、新たな入植地の建設が意思された。
- ・獄中者運動は、獄中者への強制給食を絶対的に拒否する。
- ・パレスチナのコロナ、7人の死亡と、530人の新たな感染者
- ・人権センター、占領軍は行政勾留者の声明占領軍は全面的な責任を追っている。
- ・C地域での1000戸のパレスチナ人の住宅建設を承認を意図している。

10月22日

- ・カタール：エルサレムを首都のパレスチナ国家なしに、中東の恒久的な解決はい。
- ・クネセットのメンバーが、イスラエルに対する国際的な行動を呼びかけた。
- ・ベネットはロシアを訪問
- ・占領当局は、サルフィットの西で、農民を分の土地から追い出した。
- ・ベドウィンの行進への弾圧で、占領軍の銃弾で、二人が負傷
- ・占領軍は、ヘブロン南の二人の兄弟を、ひき逃げ作戦を企んでいるとして、逮捕した。
- ・占領当局は、パレスチナの人権6団体をテロリストとして規定した。
- ・カフルカッダムの弾圧でイスラエル軍の銃弾で3人が負傷した。
- ・パレスチナのコロナ、6人死亡、459人が新たに感染
- ・ガザのコロナ、4人死亡、334人の新たな感染者

- ・ウナム・アルーフアムで、暴力と犯罪の拡大に抗議して、大規模なデモ
- ・UN 人権事務所は、テロ法は、人権の制限に使ってはならない。

10月23日

- ・ジャバル・ムカベルの家を急襲し、殴打し、嫌がらせをし、老人を含む4人を逮捕した。
- ・ワシントンは、イスラエルにパレスチナの6団体をテロリスト規定したことの明確化をもとめた。
- ・NGOの連合は、占領当局、団体を閉鎖する決定を非難した。
- ・彼らを攻撃したあと、占領当局は、シラムカンの4人のメンバーを釈放した。
- ・米国は、シリアでアルカイダの幹部を暗殺した。
- ・米国の下院議員は、イスラエルがパレスチナ6団体をテロ団体と規定する決定を非難した。
- ・ジェニンの北東で、占領軍の銃弾で青年が撃たれた。
- ・パレスチナのコロナ、9人の死亡と220人の新たな感染者
- ・ジェニン、獄中者と連帯し、殉教者の遺体の返還を求める座り込みが行われた。
- ・パレスチナは、安全保障理事会に占領のテロから国際的防衛を提供するように呼びかけた。
- ・エルサレム政府：アルアクサの近隣にシナゴグを建設する計画は、新たな犯罪である。

10月24日

- ・占領軍は、ヘブロン市の市民を逮捕した。
- ・ガザのコロナ、7人死亡、139人が新たに感染
- ・アルトワナ村で、占領当局は、家々の建設止める通知を渡した。
- ・パレスチナのコロナ、10人の死亡と270人の新たな感染者
- ・ヘブロン市の獄中者を支持する行進の弾圧で、窒息者
- ・イスラエルは、9000の新たな労働者で労働者クオウタの拡大を開始すると発表した。

10月25日

- ・ハーンユニスへのイスラエルの機甲化部隊の限定的な侵攻
- ・入植者たちは、カラワト・パニ・ハッサンで羊飼いを攻撃
- ・イスラエルは、300億シェケルの経済計画をアラブ人コミュニティに配分する。
- ・民族評議会は、パレスチナでの占領の犯罪を止めるように、世界の議会とその連盟に求めた。
- ・PLOは、不当なパレスチナの団体への決定を拒否した。
- ・ガザのコロナ、5人死亡、314人の新たな感染者
- ・ハーンユニスへの占領軍機甲化部隊の限定的な侵攻
- ・国連は、西岸の入植地への立場を明確にした。
- ・占領裁判所は、バトン・アルーハワの住民の件について、他日まで決定を延期した。
- ・パレスチナ：西岸の併合は、二国家解決への国際的な立場の真剣さの最終テストである。
- ・ガザの子供たちがハンストに連帯した。
- ・パレスチナで、8人の死者と438人の新たな感染者
- ・イドナの住民を建設中止と解体の通知で脅した
- ・アルーザワイヤで二人の年少の子供を逮捕
- ・EUは、イスラエルに入植地の建設を止めるように呼び掛けた

10月26日

- ・占領軍は、道路と水道をブルドーザーで破壊し、マサフェル・ヤッタの連帯テントを解体した。
- ・ヤバドでの占領軍との衝突で負傷。
- ・EU：われわれは、パレスチナの市民団体への資金提供は続ける。
- ・ガザのコロナ、5人死亡、256人の新たな感染者
- ・ワシントンは、パレスチナの6団体に対するイスラエルの主張を否定
- ・イスラエル軍は、ガザの戦線で、演習を行った。
- ・ジェニン、占領軍は、軍事検問所を設置し、バラタを急襲した。

- ・エルサレム人は、自らの手で、自宅を解体させられた。
- ・イラン：大規模なサイバー攻撃で、ガスステーションが止まった。
- ・北部ガザで。占領軍の船が、機関銃を漁船に向けた
- ・ベツレヘムの西で、入植者たちが、オリブの木にダメージを与えた
- ・ラマラで、スト中の獄中者と連帯する行進が行われた。
- ・イスラエルの放送局：イスラエルは、イランの核施設に攻撃の運日をしている。

10月27日

- ・青年たちが、殉教者の墓の土地に作られていた鉄のフェンスを解体した。
- ・ガザのコロナ、6人死亡、240人の新たな感染者
- ・ガザ南部で、占領軍は、漁師を標的にした。
- ・フランスは、パレスチナの6団体をテロリストとイスラエルが規定したことに懸念を表明。
- ・占領軍は、西岸で、捜索と逮捕キャンペーンを開始した。
- ・占領軍は、ヘブロン市の近隣のアブカイトを急襲し、自宅から青年を逮捕した。
- ・アルーファワル難民キャンプで、イスラエル兵たちに火炎瓶が投げられた。
- ・パレスチナのコロナ、6人死亡、370人の新たな感染者
- ・イスラエルの裁判所は、獄中者カバハをジェニン近くの入植地の殺人で非難した。
- ・殉教者と人々の墓地に対するブルドーザーの工事は続いている。
- ・アメリカの圧力の後、数千の入植地住宅の承認の決定を遅らせている。
- ・占領当局は、エルサレムでの子供のスポーツ、文化活動を禁止した。
- ・イスラエル人の代表団は、ラマラでパレスチナ6団体の代表と会見した。
- ・イラン：核協議は、11月の終わりより前に再開される。
- ・ワシントンの反対にもかかわらず、イスラエルは、西岸での数千の入植地住宅の建設を承認した
- ・大統領府は、西岸での3144の入植地住宅の建設の承認を非難した。
- ・米国の国務長官イスラエルの国防相の間で、緊張した会話が

10月28日

- ・ヨルダン、イスラエルの新たな入植地住宅の承認を非難
- ・ジェニンの西で、占領軍によって、逮捕が行われ、青年が銃撃された
- ・米国当局者：エルサレムで領事館を開くためには、イスラエルの承認が必要。
- ・ガザのコロナ、5人死亡、299人が新たな感染者
- ・日本は、入植地を凍結することを呼びかけた
- ・ガザで、2か月の間に、情報提供者に対して、6人に死刑判決、一人に終身刑
- ・アルーアラケブ、194回目の解体が行われた。
- ・パレスチナのコロナで、6人死亡、355人の新たな感染者
- ・アルメニア正教の司祭たちは、エルサレムのアルメニア協会に属する12の土地を99年貸し出すことに反対している
- ・人民闘争戦線占領当局の電気の供給のカット、は政治的脅しである。
- ・48年領内で、犯罪に抗議するカーラリーを行った。
- ・ベイトウマールの衝突で、窒息者
- ・ロシア：西岸とエルサレムの入植地は、違法である。
- ・11の欧州諸国が、イスラエルに入植地の拡大を止めるように要求した。
- ・民族主義諸勢力：シェイク・ジャラの提案されている入植地は、欺瞞と詐欺である。
- ・ベネット：ローテーションはありえない、政府は解散するだろう。

10月29日

- ・占領当局は、入植地の水を、ヨルダン渓谷の市民の土地を通過させて拡張することを決定した。
- ・EU：我々は、1967年国境のどのような変更も認めないし、入植地は、平和の障害である。
- ・ガザのコロナ、5人死亡、233人の新たな感染者
- ・カフル・カッセムの虐殺65周年を悼む行進が48年領内で行われた。
- ・占領軍は、西岸で7人の市民を逮捕した。

オリブの会通信 第13号(通巻19号)

- ・ガズは、相違にもかかわらず、政府を解散することを否定した。
- ・イスラエル軍は、レバノン国境エリアの住民に家にとどまるように命令、治安事件で
- ・占領軍の船は、ガザの海で、漁船を包囲し、発砲した。
- ・イスラエル：バイデン政権は、西岸での入植地の拡大を妨害しない。
- ・占領軍は、ベツレヘムの南西の農業道路にブルドーザーをかけると通知
- ・パレスチナのコロナ、6人死亡、340人の新たな感染者
- ・デュラで、ハンストの獄中者を支持する行進が行われた。
- ・占領当局はヘブロンで少年を逮捕した。
- ・ユスフィヤ墓地で、音響弾で、エルサレム人を弾圧し、4人を逮捕。
- ・カルキリヤの東、カフル・カッダムの占領軍による弾圧で、2人が撃ち殺された。

10月30日

- ・イスラエルの国連代表は、人権評議会の報告を破りさいた。
- ・イスラエル軍は、レバノン国境を越えた容疑で、一人を逮捕
- ・アメリカの288団体が、バイデン政権に、イスラエルのパレスチナの市民団体を弾圧することを非難するように呼び掛けた。

- ・ガザのコロナ、4人死亡、147人が新たに感染
- ・ダマスカス郊外へのイスラエルの侵略で2人のシリア軍兵士が負傷
- ・パレスチナのコロナ、7人死亡、210人の新たな感染者
- ・治安部隊：バラタキャンプでの武装デモを解散させ、終わらせた。
- ・ヘブロンでの、占領軍との衝突で、負傷者。
- ・イスラエルの戦闘機が、アメリカの爆撃機をガルフまで護衛した。
- ・バブ・アルアムド近くで占領軍が、子供を攻撃し逮捕した。

10月31日

- ・ガザのコロナ、3人死亡、125人の新たな感染者
- ・ベネット：我々は、パレスチナ国家、たとえ似たような実態を創設することに強く反対する
- ・占領軍のブルドーザーは、リッダの家を破壊する
- ・占領当局は、ジェニン近くのドサン検問所を、銃撃のあと閉鎖した。
- ・イスラエルは、全面戦争とアラブの町への攻撃を想定した演習を行った。
- ・パレスチナのコロナ、5人死亡、235人の新たな感染者
- ・大統領は、バルホア宣言の記念日にパレスチナ国旗を半旗にすることを決定した。

パレスチナの人々が愛した歌 (第一次インティファダの時代)

ジュリア・ブトロス ウェンエルマライン

家族の起源が南レバノンにあるキリスト教徒の歌手、ジュリア・ブトロスの政治的な歌はわかりやすい例だ。レバノンの愛国歌が生み出したのはブトロスの訴えだけではないが、彼女の存在は国民感情を形成するにあたって常に重要なものだった。その国民感情の土台となっているのは、領土の統合、個人および集団の威厳や力、抵抗という共通の価値観である。

彼女の訴えは、1970年代と1980年代に才能のある子供として登場した時に生まれ、レバノン内戦の対立時代における特有の共通の目標と同時期に存在した。南レバノンのイスラエル軍の駐留と侵略に抵抗していたのだ。

しかし、見た目には一つになった政治目的に一貫性がなかったとしても、それは完全なものでもない。イスラエル軍がベイルートに到着した1982年の侵略の直後から、それに続いて警戒区域を設定し、イスラエル軍とレバノン同盟軍(南レバノン軍)が共同で軍事管理を行うことになった時点まで、レバノン領土全域の支配権を取り戻そうとする願望は地域にまつわるものとは言えな

かった。

2000年5月にイスラエル軍が突然引き上げるまで、南レバノンはずっと国体の圧痛点だった。何十年にもわたってその問題に焦点を当て続けて発信していた一人の歌手、それはブトロスである。一つの派閥の侵略者が別の派閥の協力者であったとしても、彼女の歌はすべての形の脅迫に対する抵抗であるだけでなく、外国軍の駐留に対する抵抗の象徴となった。

1985年のブトロスの歌「Ghabet Shams El Haq」は「真実の太陽は陰りを見せた—夜明けは日没になった」で始まる。「私たちは死ぬことを拒絶する。私たちはこの世にとどまると彼らに伝えよう。自分の国、自分の家。勤勉な人々。聞いて。ああ、南部。愛する私の南部。」とリフレインが続く。この歌は、イスラエルの侵略に続いて、血なまぐさい戦争のさ中に書かれ、何十年も確実に大衆を覚醒させた。

何千人もの大衆がこの曲の出だしの部分で2秒以内に歓声をあげ、曲に合わせて正確に歌うようになったのは、2010年代になってからようやくのことである。イスラエ

ル軍の南レバノン駐留は最終的に2000年に終了したが(全体的には終了したが、わずかな国土が様々な方角からずっと奪い合いの対象になっている)、プトロスの歌の力は衰えることがなかった。

ほぼすべての地方の政治的忠誠心と同様に、プトロスの神権政治的イデオロギーと社会主義的イデオロギーの連携に対する忠誠心は複雑なものだった。彼女のファン層はヒズボラとその左翼支援者に政治的に関与しており、また、その幾重ものファン層を構成していたのは、ミシェル・アウンがその後築き上げた国民同盟ヒズボラだけだった—キリスト教徒の元陸軍大将を支援する超国家主義者で、政治的方向性の極右にいる人々にとってのはがっかりする事実だった。それでもプトロスの歌は、少なくとも1、2年前までは、引き続き多くの大衆を奮起させていた。

しかし、ここ三週間は、政治屋の告白内容の細かな推移とこれまでの40年間の変化だけでなく、一つになった人々がその境界線を横断させた大きな筆運びもうまく曖昧にしてきた。それらの筆運びはこれまでほとんどなかったものだ。タラ・ジャルジュル ARAB NEWS

以上の引用は、2000年代に書かれたものである。今回紹介する歌は80年代で、パレスチナ勢力がレバノンから撤退し、アラブの民族解放闘争が後退局面になったときに、パレスチナでは、占領地から石の革命がおこった。このジュリア・プトロスの歌は、その時代を反映している。作曲者は、リビア人で、ジュリア・プトロス、シリアの女性歌手、リビアの女性歌手の三人で歌っていた。

ジュリア・プトロス ウェンエルマライン (原曲は YOUTUBE で聞くことができます)

数百万人(数百万のアラブ人)は、どこに。
アラブの怒りはどこに。
アラブの血は、どこに。
アラブの尊厳はどこに。数百万人はどこに。
彼らはどこに?

金持ちの子供たちは、平和に休んでいる。そして、数百万人は、困難にある。
私の胸に、機関銃の倉庫がある。
寝る時間です。パシャは眠った。私たちはいまだに家がない

軍隊はテレビのスクリーンに映っているだけ、武器はさび付いている。倉庫で眠っていたから。

革命は真の男たちを必要としている。
金で買うことはできない。
石をもった民族の革命は、船団に挑戦した。
老人と若者の犠牲は、喜んでではなく、義務である。

肋骨の内部の強さは、装甲より以上に強い

アッラーは、我々ともにあり、シオニストよりも、万能で強い、彼らが我々を絞首刑にしようと、殺そうと、葬ろうと、私の土地は、侮られない。
私の赤い血は、酸っぱいレモンの緑を灌漑するだろう。
囚われの身から脱出するために我々は闘う。降伏も敗北もしない。

我々は、山々より強い
砂より優れている
囚われの中で、我々は、殉教者は生きていと歌う。

私が助けを呼びかけても、一億人から何も得ていない。
彼らは、夜に起き、そして眠る。周りで何が起きているかを見ない
最低の尊厳、私の家は、空で、捨てられている。彼らは、金と息子たちで満たされてる
彼らは私を忘れていて。彼らは、私に何が起こったのかを知らない、そして、私は監獄で生まれる。

私は軍隊に呼びかけた。しかし、彼らは、私の声を聴かなかった。

我々は選択肢が与えられた。そして、酸っぱさを選んだ(それは、土地を守ることであり、そのために死ぬことである)そして、我々はその対価を知っている。
我々は、兵器と分子にナイフとスリング・ショット(パチンコ)で立ち向かう。

アラブの統一の不在で、傷は出血した。
献身的な母は、攻撃され、老人は、泣いている。
罪もない子供が殺された。赤ん坊は死んだ
折り畳みのテントもった難民は、どこへ行くのか聞いている

あなたは銀行を一杯にし、ヤルムークの闘い*を忘れた
統一が実現したとき、そして、我々は強固なダムになる。

偉大な軍と一つの旗のもと、それは、虐待された人々を取り戻す。

我々は、真実と革命である。

そして、彼らは象の所有者である。

真実と革命の世代

互いの鳥を追うことを続けている

我々は、彼らに石を投げなければならない。

粘土質の石を

跪くな、不法占拠者に従うな

パレスチナの詩

この詩は、パレスチナの音楽グループ、サブリーシによって、歌として発表されている。望みについては、パレスチナ人たちが他の国の革命にあこがれていることに対して、自分たちの足元で戦うことの重要性を訴えたものである。男については、弾圧中での不屈を歌っている。たたかうパレスチナ人の大きな力となったものである。

望みについて

私に言わないでください：

私はアルジェでパンの売り手でしたが
反逆者と一緒に歌うために。

私に言わないでください：

私はイエメンの牧夫でしたが
私が時間の震えに歌うかもしれないこと。

私に言わないでください：

私はハバナのカフェウェイターでしたが

悲しむ女性の勝利を歌うために。

私に言わないでください：

私はアスワンで若い労働者として働いたでしょうか
岩に向かって歌うために。

私の友人、

ナイル川はヴォルガ川に流れ込みません、

コンゴやヨルダンもユーフラテス川に流れ込んでいません。

それぞれの川には、その源、その流れ、その生命があります。

私の友人、私たちの土地は不毛ではありません。

それぞれの土地には生まれる時間があります。

それぞれが反逆者とのデートを夜明けします。

マフムード・ダルウィッシュ

彼らの欺瞞は失われる。

肋骨内の強さは、装甲よりもさらに強い

我々が消えても、歴史は、我々は我が土地を裏切らなかつたと書く

どこに

革命は確信であり、革命はヘッドラインである。

船団に挑戦した石を手にした民族の革命

*ヤルムークの戦い は、東ローマ帝国とその同盟国のガッサーン朝（英語版）が、正統カリフ勢力のアラブ軍とヨルダン川の支流のヤルムーク川で激突した戦い。この戦いに完勝した正統カリフ勢力によって東ローマ帝国のシリア支配は終わりを告げ、預言者ムハンマドの死後始まったイスラームの「大征服」時代の幕開けとなった。これ以後、キリスト教の影響が強かったレバント地方は急速にイスラーム化が進む。

人間について

彼らは彼の回を猿轡かませた、

死者の岩に手を縛った

そして言った：殺人者！

彼らは彼の食べ物、服、旗を取りました、

彼を非難された独房に投げ込む

そして言った：泥棒！

彼らは彼をすべての港から追い払った、

彼の若い恋人を連れて行った、

それから言った：難民！

目の充血と血まみれの手であなたよ、

夜は短命です、

拘留室は永遠に続くことはありません、

まだチェーンのリンク。

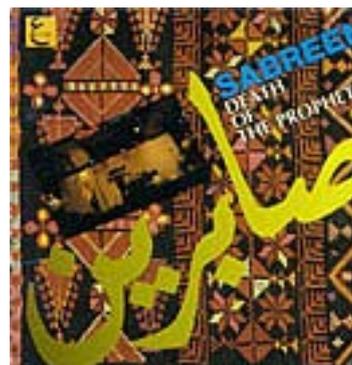
ネロは死にましたが、ローマは死にませんでした：

彼女はまさに目で戦う。

そして枯れた耳からの種

小麦で谷を埋める。

マフムード・ダルウィッシュ



おいしいパレスチナ カーク

カークの売り手はエルサレムのいたるところにあり、このおいしいパンは多くの食事に添えられています。ザアタル、ラブネ、または固ゆで卵と一緒に出すことをお勧めします。

材料

小麦粉 4 カップ

13/4 カップの温水

砂糖 小さじ 3

小さじ 3 オリーブオイル

大さじ 1 酵母

塩 小さじ 1

トッピング

生ごま 2 カップ (トーストなし)

砂糖 小さじ 1

1tps 水

準備

ぬるま湯に砂糖、油、酵母を混ぜ、小麦粉と塩を加えます。ボールが形成されるまで、パン焼き機で混ぜます (または手でひざまぎます)。生地を粉にしたボウルに移し、蓋をして、45 分間上昇させます。

上昇すると、サイズはほぼ 2 倍になります。粉にした表面で、手で数分間こねます。次に、生地を 4 つの均等な部分に分割します。各部分をボール状にこねます。粉をまぶした表面に置き、蓋をして、15 分間休ませます。



各ボールを長方形に平らにしてから、長い円筒形に丸めます。両端を合わせて楕円形のリングを作ります。

各リングをゴマの混合物に入れます。ゴマが生地の両側にくるように裏返します。羊皮紙で裏打ちされた天板に置きます。ふたをして 30 分間休ませます。

オーブンを 400 度に加熱し (Ka' ek が休んでいる間)、20 ~ 25 分間焼きます。途中で、パンがすべて均等に焼けるように調理トレイを切り替えます。オーブンの温度は変動する可能性があるため、パンに注意し、ゴマが黄金色になったらパンを取り除きます。

守ろう！オリーブの木を カンバのお願い



オリーブ畑再生基金の目的

土地を守ることは抵抗闘争である。
パレスチナの農民の土地を守る闘い、
生活を守る闘いを支援します。
集まった基金は、パレスチナ農業
労働委員会連合 (UAWC) に送ります。

郵便振替

記号番号：00960-2-303500 番
名称：オリーブの会 (オリーブノカイ)

他行等から振り込む場合

店名 (店番)：〇九九店 (099)
預金種目：当座
口座番号 0303500



女性への暴力をストップ



パレスチナを拒否するフェイスブック



今号の内容

エルサレム作戦は抵抗闘争の拡大を生み出した・・・・・・・・・・・・・1
 バルフォア宣言から104年・・・・・・・・・・・・・2
 団結した捕虜運動・・・・・・・・・・・・・6
 ルネサンス文化・文明の間のアプローチ・・・・・・・・・・・・・6
 パレスチナ日誌・・・・・・・・・・・・・8
 パレスチナの愛した歌・・・・・・・・・・・・・12
 パレスチナの詩・・・・・・・・・・・・・14
 おいしいパレスチナ・・・・・・・・・・・・・15
 ピック・・・・・・・・・・・・・16



イスラエル空軍は2021年10月20日(水)、同国で行われている多国間共同演習「ブルーフラッグ2021」において、参加各国の空軍機による多数機発進準備訓練を実施、その様子を公式Twitter(ツイッター)で公開しました。【8か国軍用機によるエレファントウォーク/イスラエルとドイツ両国の編隊飛行ほか】多数機発進準備訓練は通称「エレファントウォーク」と呼ばれるもので、その名のとおり、象が集団で歩く様子に似ているところから名付けられたものです。説明によると、参加したのはイスラエル、アメリカ、イタリア、ドイツ、インド、ギリシャ、イギリス、フランスの8か国で、F-15「イーグル」やF-35A「ライトニングII」、F-16「ファイティングファルコン」といったアメリカ製戦闘機のほか、ダッソー「ラファール」やミラージュ2000、ユーロファイター「タイフーン」といったヨーロッパ製戦闘機、ガルフストリームなどのビジネスジェット流用の軍用機の姿も確認できます。

ベツレヘム 聖地の守護者フランセスコ・パットン神父が、クリスマスのお祝いを始めるために、エルサレムからベツレヘムに到着した。